

バーチャル LAN

概要・基本設定	2
デフォルト VLAN	2
ポート VLAN	2
タグ VLAN	3
VLAN タグ対応サーバーの共用	4
VLAN タグを利用したスイッチ間接続	5
マルチプル VLAN	7
設定例	9
コマンドリファレンス編	11
機能別コマンド索引	11
ADD VLAN PORT	12
CREATE VLAN	14
DELETE VLAN PORT	16
DESTROY VLAN	18
SET VLAN MODE	20
SET VLAN PORT	22
SHOW VLAN	24
SHOW VLAN MODE	27

概要・基本設定

バーチャル LAN (VLAN) は、スイッチの設定によって論理的にブロードキャストドメインを分割する機能です。レイヤー 2 スイッチは、宛先 MAC アドレスとフォワーディングデータベースを用いて不要なトラフィックをフィルタリングする機能を持ちますが、未学習の宛先 MAC アドレスを持つユニキャストフレームと、マルチキャスト/ブロードキャストフレームは全ポートに出力します。VLAN を作成して、頻繁に通信を行うホスト同士をグループ化することにより、不要なトラフィックの影響を受ける範囲を限定し、帯域をより有効に活用できるようになります。

デフォルト VLAN

ご購入時の状態ではすべてのポートが VLAN default (VID=1) に所属しており、相互に通信可能な状態になっています。

ポート VLAN

ポート VLAN は、ポート単位で VLAN の範囲を設定する基本的な VLAN です。

1. 新規に VLAN を作成するには CREATE VLAN コマンド (14 ページ) を使います。VLAN 作成時には、VLAN 名と VLAN ID (VID) を割り当てる必要があります。VLAN 名は任意の文字列 (ただし、先頭が数字の文字列と「default」、「ALL」は使用できません)、VID は 2 ~ 4094 の範囲の任意の数値 (1 は VLAN default のために予約済みです) です。ここでは、3 つの VLAN、A (VID=10)、B (VID=20)、C (VID=30) を作成します。

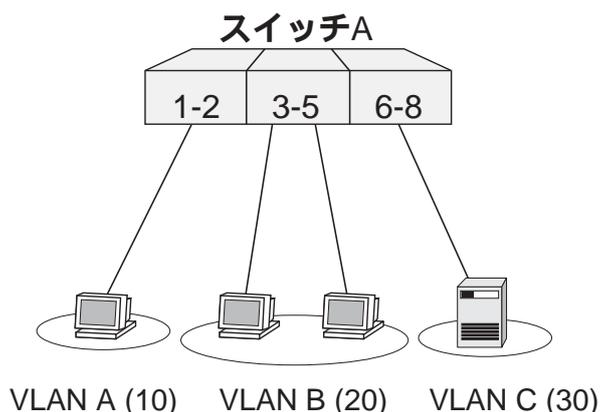
```
CREATE VLAN=A VID=10 ↓  
CREATE VLAN=B VID=20 ↓  
CREATE VLAN=C VID=30 ↓
```

これ以降、VLAN 名を指定するときは VLAN 名、VID のどちらを使ってもかまいません。ここでは VLAN 名を使います。

2. VLAN を作成したら、ADD VLAN PORT コマンド (12 ページ) で VLAN にポートを割り当てます。ここでは、VLAN A にポート 1~2 を、VLAN B にポート 3~5 を、VLAN C にポート 6~8 を割り当てます。

```
ADD VLAN=A PORT=1,2 ↓  
ADD VLAN=B PORT=3-5 ↓  
ADD VLAN=C PORT=6-8 ↓
```

このようにしてポートを default 以外の VLAN に割り当てると、そのポートは自動的に VLAN default から削除されます。すなわち、8 ポートの製品である GS908M で上記の設定を終えると VLAN default には所属ポートが 1 つもない状態になります。



これで、物理的には1台のスイッチでありながら、ネットワーク的には3台のスイッチに分割されたような状態となります。VLAN A、B、Cは完全に独立しており、互いに通信することはできません。

VLANの情報を確認するには、SHOW VLAN コマンド (24 ページ) を使います。

VLAN からポートを削除するには、DELETE VLAN PORT コマンド (16 ページ) を使います。例えば、ポート7と8をVLAN Aから削除するには、次のように設定します。default以外のVLANから削除されたポートは、自動的にVLAN defaultの所属に戻ります。

```
DELETE VLAN=A PORT=7-8 ↓
```

ポートが所属するVLANを変更する場合、例えば上記の例で、VLAN Aに所属していたポート8を、VLAN Bの所属に変更するような場合には、一度、ポート8をVLAN Aから削除してから、VLAN Bにポートを割り当ててください。

VLANを削除するには、DESTROY VLAN コマンド (18 ページ) を使います。VLANの削除は、所属ポートをすべて削除してからでないと行えません。VLAN Cを削除するには、次のように設定します。

```
DELETE VLAN=C PORT=ALL ↓
```

```
DESTROY VLAN=C ↓
```

※ VLAN default は削除できません。

タグ VLAN

タグ VLAN を使用すると、1つのポートを複数のVLANに所属させることができます。これは、イーサネットフレームにVLAN IDの情報を挿入し、各フレームが所属するVLANを識別できるようにすることによって実現されます (802.1Q VLAN タギング)。タグ VLAN は、複数のVLANを複数の筐体にまたがって作成したい場合や、802.1Q対応サーバーを複数VLANから共用したい場合などに利用します。各ポートのVLAN設定には次のルールが適用されます。

- ポートは、0~1つのVLANにタグなしポート (Untagged Port) として所属できる

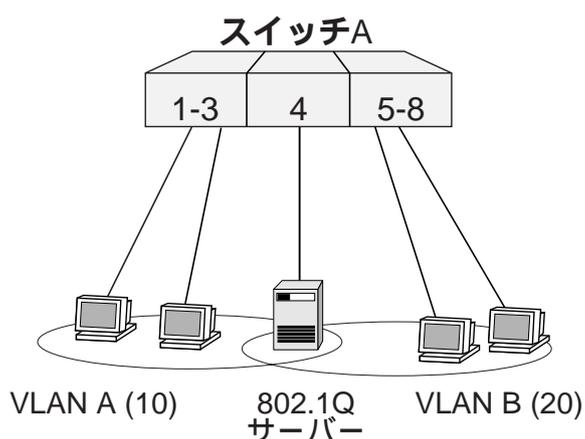
- ポートは、0～複数の VLAN にタグ付きポート（Tagged Port）として所属できる
 - ミラーポート以外のポート（通常のポート）は、必ず 1 つ以上の VLAN に所属していなくてはならない
- ✧ VLAN タグを使用する場合、接続先機器も VLAN タグ（802.1Q）に対応している必要があります。
- ✧ タグつきポートに設定されたポートには、ポート認証は併用できません。

VLAN タグ対応サーバーの共用

VLAN タグを利用して、ポート 4 を 2 つの VLAN に所属させ、どちらの VLAN から 802.1Q 対応サーバーにアクセスできるように設定します。

- ✧ VLAN タグを使用する場合、接続先機器も VLAN タグ（802.1Q）に対応している必要があります。

ここでは次のようなネットワーク構成を例に説明します。



1. VLAN A、B を作成します。

```
CREATE VLAN=A VID=10 ↓
CREATE VLAN=B VID=20 ↓
```

2. VLAN A にポートを追加します。ポート 1～3 はタグを使わない通常のポートに設定し、ポート 4 はタグを使用するポートとして設定します。VLAN にタグ付きポートを追加するときは、ADD VLAN PORT コマンド（12 ページ）の FRAME パラメーターに TAGGED を指定します。FRAME パラメーターを付けなかったときはタグなし（UNTAGGED）となります。

```
ADD VLAN=A PORT=1-3 ↓
ADD VLAN=A PORT=4 FRAME=TAGGED ↓
```

3. VLAN B にポートを追加します。ポート 5～8 はタグを使わない通常のポートに設定し、ポート 4 はタグを使用するポートとして設定します。

```
ADD VLAN=B PORT=5-8 ↵
```

```
ADD VLAN=B PORT=4 FRAME=TAGGED ↵
```

以上で設定は完了です。

これにより、ポート 1～8 から送受信されるフレームは次のようになります。

ポート 1～3	送信	ポート 1～3 から送信するフレームは VLAN A 宛てのタグなしフレーム
	受信	ポート 1～3 で受信したタグなしフレームは VLAN A (VID=10) 所属とみなされる
ポート 4	送信	ポート 4 から送信するフレームは、VLAN A 宛てなら VID=10 のタグ付きで、VLAN B 宛てなら VID=20 のタグ付きで送信される
	受信	ポート 4 では VLAN A、B 両方のトラフィックを受信する。受信するフレームはタグ付き。タグの VID により、所属 VLAN を判断する
ポート 5～8	送信	ポート 5～8 から送信するフレームは VLAN B 宛てのタグなしフレーム
	受信	ポート 5～8 で受信したタグなしフレームは VLAN B (VID=20) 所属とみなされる

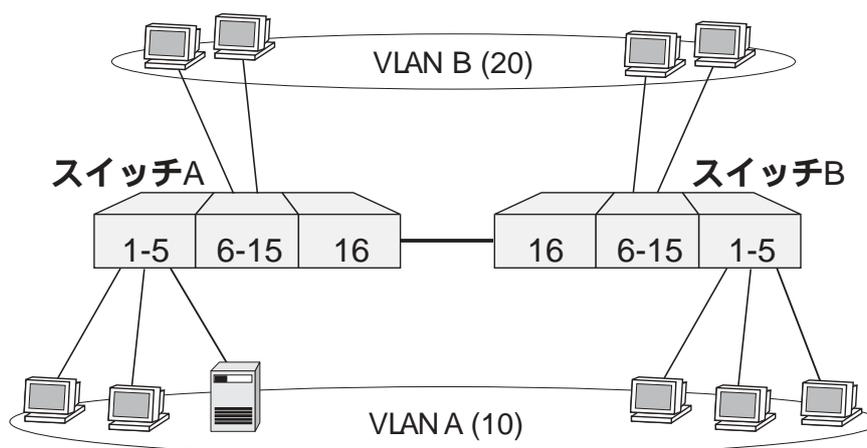
表 1:

上記の設定では、ポート 4 は VLAN default にも (タグなしポートとして) 所属したままになっています。他にも VLAN default 所属のポートがあってトラフィックが流れている場合、ポート 4 にも VLAN default のブロードキャストパケットが送出されます。これが望ましくない場合は、DELETE VLAN PORT コマンド (16 ページ) を使って、ポート 4 を VLAN default から削除します。

```
DELETE VLAN=default PORT=4 ↵
```

VLAN タグを利用したスイッチ間接続

VLAN タグを利用して、2 台のスイッチにまたがる VLAN を作成します。ここでは次のようなネットワーク構成を例に説明します。ポート 16 をタグ付きに設定し、VLAN A、B 両方のトラフィックがスイッチ間で流れるように設定します。



スイッチの設定 (A、B 共通)

1. VLAN A、B を作成します。

```
CREATE VLAN=A VID=10 ↵
CREATE VLAN=B VID=20 ↵
```

2. VLAN A にポートを追加します。ポート 1～5 はタグを使わない通常のポートに設定し、ポート 16 はタグを使用するポートとして設定します。VLAN にタグ付きポートを追加するときは、ADD VLAN PORT コマンド (12 ページ) の FRAME パラメーターに TAGGED を指定します。FRAME パラメーターを付けなかったときはタグなし (UNTAGGED) となります。

```
ADD VLAN=A PORT=1-5 ↵
ADD VLAN=A PORT=16 FRAME=TAGGED ↵
```

3. VLAN B にポートを追加します。ポート 6～15 はタグを使わない通常のポートに設定し、ポート 16 はタグを使用するポートとして設定します。

```
ADD VLAN=B PORT=6-15 ↵
ADD VLAN=B PORT=16 FRAME=TAGGED ↵
```

設定は以上です。

複数のスイッチにまたがる VLAN を作成する場合は、各筐体で同じ VLAN ID を設定するようにしてください。一方、VLAN 名は個々の筐体内でしか意味を持たないので、スイッチごとに異なってもかまいません (ただし、混乱を防ぐ意味では同じ名前を付けた方がよいでしょう)。

上記の設定では、ポート 16 は VLAN default にも (タグなしポートとして) 所属したままになっています。他にも VLAN default 所属のポートがあってトラフィックが流れている場合、ポート 16 にも VLAN

default のブロードキャストパケットが送出されます。これが望ましくない場合は、DELETE VLAN PORT コマンド (16 ページ) を使って、ポート 16 を VLAN default から削除します。

```
DELETE VLAN=default PORT=16 ↓
```

マルチプル VLAN

SET VLAN MODE コマンド (20 ページ) でマルチプル VLAN モードを指定すると、マルチプル (セレクトダブル・ポート) VLAN になります。マルチプル VLAN モードを選択すると、自動的に UV、CV、NV という 3 つの属性に分類される VLAN が作成されます。VLAN の設定は固定で、新規 VLAN の作成や VLAN 名の変更はできませんが、すべてのポートを UV、CV、NV のいずれかの VLAN に割り当てることができます。UV、CV、NV の各属性と VLAN の定義は下表のとおりです。

	UV(アップリンク VLAN)	CV(クライアント VLAN)	NV(ノーマル VLAN)
属性	ルーター (インターネット) やサーバーなどの共有機器の接続を行うための VLAN	各部屋や各教室など互いの通信を制限するコンピュータの接続を行うための VLAN	通常のスイッチとして使用するためのマルチプル VLAN から独立した VLAN
VLAN 数 (固定)	3 個	3 × 33 個	10 個
VLAN 名 (固定)	UV1 UV2 UV3	CV1 ~ CV33 CV34 ~ CV66 CV67 ~ CV99	NV1 ~ NV10
VLANID (固定)	UV1=200 UV2=201 UV3=202	CV1 ~ CV33=1 ~ 33 CV34 ~ CV66=34 ~ 66 CV67 ~ CV99=67 ~ 99	NV1 ~ NV10=100 ~ 109

表 2:

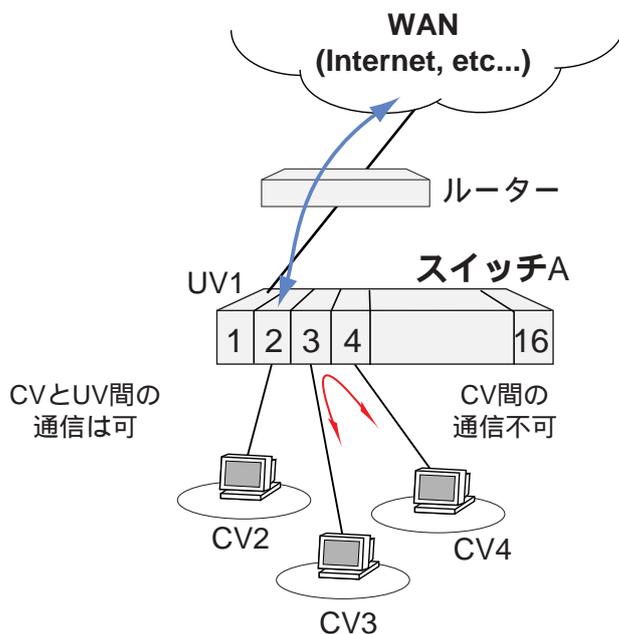
※ 1 つの VLAN につき複数ポートを割り当てることができます。

マルチプル VLAN の仕様は、次のとおりです。

- クライアントポート (CV に属するポート) 間では通信ができない
- クライアントポートとアップリンクポート (UV に属するポート) 間では通信が可能
- アップリンクポートとクライアントポートのグループ (マルチプル VLAN) とノーマル VLAN (NV) 間では通信ができない
- 802.1Q タグ付きパケットのタグは認識せず、そのまま転送する
- ポートセキュリティおよびポートミラーリング機能は使用可能

※ クライアントポート (CV に属するポート) では、管理機能 (SNMP や PING など) を使用することはできません。

- ※ マルチプル VLAN モード時は同一 MAC アドレスを持つ FDB エントリーを VLAN ごとに管理することができません。UV1~3 に接続する上位機器は、それぞれ異なるインターフェースとなるようにしてください。



マルチプル VLAN モードに変更後のデフォルトのポート割り当ては、下記のようになっています。(GS916M の場合)

```
Manager > show vlan
```

```
VLAN Information
```

```
-----
```

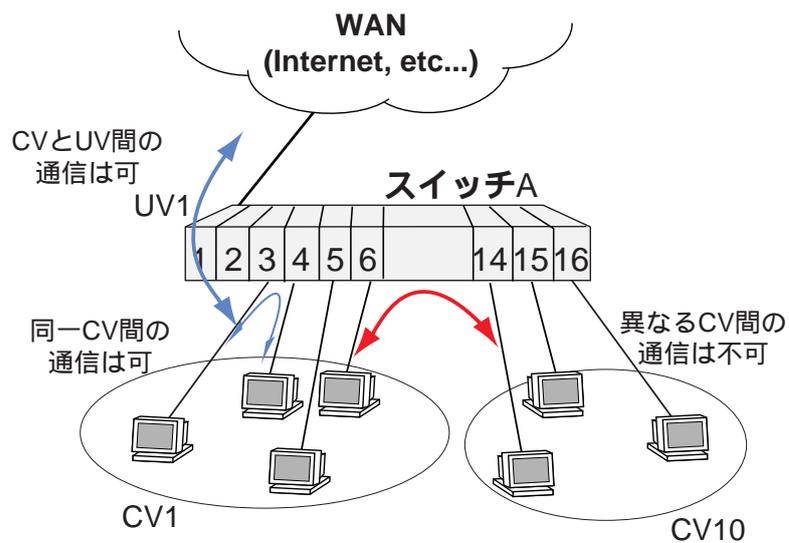
Port	Vlan
01	UV1
02	CV2
03	CV3
04	CV4
05	CV5
06	CV6
07	CV7
08	CV8
09	CV9
10	CV10
11	CV11
12	CV12
13	CV13
14	CV14
15	CV15
16	CV16

```
-----
```

設定例

次に、マルチプル VLAN の設定例（GS916M を使用した例）を示します。

ここでは、マルチプル VLAN モードに変更し、ポート 1、2 を UV1、ポート 3～10 を CV1、ポート 11～16 を CV10 に変更します。



1. VLAN モードを変更します。

```
SET VLAN MODE=MULTIPLE ↵
```

2. ポート 1、2 を UV1 に、ポート 3～10 を CV1、ポート 11～16 を CV10 に変更します。

```
SET VLAN=UV1 PORT=1,2 ↵
```

```
SET VLAN=CV1 PORT=3-10 ↵
```

```
SET VLAN=CV10 PORT=11-16 ↵
```

3. 現在の設定をスクリプトファイルに保存し、起動時設定ファイルに指定します。

```
CREATE CONFIG=multiple.cfg ↵
```

```
SET CONFIG=multiple.cfg ↵
```

4. 本製品を再起動します。

RESTART REBOOT ↵

VLAN モードの変更後は、本製品を再起動してから、IP アドレスの設定、スタティックエントリーの追加などを行ってください。

- ※ マルチプル VLAN モード時は、ポートランキングを使用できません。

コマンドリファレンス編

機能別コマンド索引

概要・基本設定

ADD VLAN PORT	12
CREATE VLAN	14
DELETE VLAN PORT	16
DESTROY VLAN	18
SET VLAN MODE	20
SET VLAN PORT	22
SHOW VLAN	24
SHOW VLAN MODE	27

ADD VLAN PORT

カテゴリー：バーチャル LAN

```
ADD VLAN={vlan-name|1..4094} PORT={port-list|ALL} [FRAME={TAGGED|
  UNTAGGED}]
```

vlan-name: VLAN 名

port-list: スイッチポート番号 (1~。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

VLAN にポートを追加する。

マルチプル VLAN モード時は、ポートと VLAN の対応は、SET VLAN PORT コマンドを使用するためエラーとなる

パラメーター

VLAN VLAN 名または VLAN ID

PORT 対象となるスイッチポート番号または ALL。ALL を指定した場合はすべてのスイッチポートが対象となる。各ポートは、タグなしポートとしては 1 つの VLAN だけに、タグ付きポートとしては複数の VLAN に所属できる。ミラーポートを VLAN に追加することはできない

FRAME 該当 VLAN のタグ設定。TAGGED (タグ付き) UNTAGGED (タグなし) から選択する。デフォルトは UNTAGGED

入力・出力・画面例

```
Manager > add vlan=test port=1-5

Operation successful.

Manager > add vlan=test port=6 frame=tagged

Operation successful.
```

例

VLAN 「test」にポート 1~5 を (タグなしポートとして) 割り当てる

```
ADD VLAN=test PORT=1-5
```

VLAN 「test」にポート 6 をタグポートとして割り当てる

```
ADD VLAN=test PORT=6 FRAME=TAGGED
```

備考・注意事項

- ・ポートが default 以外の VLAN にタグなしポートとして所属している場合は、いったん同 VLAN から削除して別の VLAN に所属させる必要がある。ポートが VLAN default に所属している状態で UNTAGGED を指定して別の VLAN に追加すると、自動的に VLAN default から削除される。
- ・LDF 検出が有効なポートにタグ付きポートを指定することはできない。

関連コマンド

CREATE VLAN (14 ページ)

DELETE VLAN PORT (16 ページ)

DESTROY VLAN (18 ページ)

SET VLAN MODE (20 ページ)

SET VLAN PORT (22 ページ)

SHOW VLAN (24 ページ)

CREATE VLAN

カテゴリー：バーチャル LAN

```
CREATE VLAN=vlan-name VID=2..4094
```

vlan-name: VLAN 名 (20 文字まで。半角英数字、およびハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸かっこ [(、終了丸かっこ [)] が使用可。大文字・小文字の属性は無視されるが、表示には大文字・小文字の区別が反映される。数字だけの文字列、先頭が数字の文字列と「default」「ALL」では作成できない)

解説

VLAN を作成する。VLAN は新規で 255 個まで作成できる。
マルチプル VLAN モードの場合は、VLAN の作成は不要のため、エラーメッセージが表示される。

パラメーター

VLAN VLAN 名。この名前はコマンドでの指定を簡単にするためのもので、スイッチの外に送られることはない

VID VLAN ID。タグ付きポートでは、この値を元に VLAN を識別する。ポート VLAN の場合は単なる識別子として使われる。

入力・出力・画面例

```
Manager > create vlan=test vid=3  
  
Operation successful.
```

例

VLAN ID3 の VLAN 「test」を作成する

```
CREATE VLAN=test VID=3
```

関連コマンド

ADD VLAN PORT (12 ページ)

DELETE VLAN PORT (16 ページ)

DESTROY VLAN (18 ページ)

SET VLAN MODE (20 ページ)

SET VLAN PORT (22 ページ)

SHOW VLAN (24 ページ)

DELETE VLAN PORT

カテゴリー：バーチャル LAN

```
DELETE VLAN={vlan-name|1..4094} PORT={port-list|ALL}
```

vlan-name: VLAN 名

port-list: スイッチポート番号 (1~。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

VLAN からポートを削除する。

マルチプル VLAN モード時は、ポートと VLAN の対応は、SET VLAN PORT コマンドを使用するためエラーとなる

パラメーター

VLAN VLAN 名または VLAN ID

PORT 対象となるスイッチポート番号または ALL。ALL を指定した場合はすべてのスイッチポートが対象となる

入力・出力・画面例

```
Manager > delete vlan=test port=5  
  
Operation successful.
```

例

VLAN 「test」のポート 5 を削除する

```
DELETE VLAN=test PORT=5
```

備考・注意事項

・タグ VLAN にしか所属していないポート (受信可能なフレームタイプが、VLAN タグ付きフレームのみのポート) で他の VLAN に所属していないポートを VLAN から削除する場合は、該当ポートのタグ設定をタグなしに変更してから削除する。

関連コマンド

ADD VLAN PORT (12 ページ)

CREATE VLAN (14 ページ)
DESTROY VLAN (18 ページ)
SET VLAN MODE (20 ページ)
SET VLAN PORT (22 ページ)
SHOW VLAN (24 ページ)

DESTROY VLAN

カテゴリ：バーチャル LAN

DESTROY VLAN={vlan-name|2..4094|ALL}

vlan-name: VLAN 名

解説

VLAN を削除する。

マルチプル VLAN モード時は VLAN の削除はできないため、エラーメッセージが表示される。

パラメーター

VLAN VLAN 名または VLAN ID

入力・出力・画面例

```
Manager > destroy vlan=test  
  
Operation successful.
```

例

VLAN 「test」を削除する

```
DESTROY VLAN=test
```

備考・注意事項

VLAN default は削除できない。また、所属ポートがある VLAN、IP アドレスが指定されている VLAN も削除できない。あらかじめポートや IP アドレスを削除してから本コマンドを実行すること。

関連コマンド

ADD VLAN PORT (12 ページ)

CREATE VLAN (14 ページ)

DELETE VLAN PORT (16 ページ)

SET VLAN MODE (20 ページ)

SET VLAN PORT (22 ページ)

SHOW VLAN (24 ページ)

SET VLAN MODE

カテゴリー：バーチャル LAN

```
SET VLAN MODE={802.1Q|MULTIPLE}
```

解説

VLAN のモードを変更する。デフォルトは、802.1Q タグ VLAN モード。
コマンド実行後は、設定を保存し、システムを再起動する。設定はシステムの再起動後に有効になる

パラメーター

MODE VLAN モードを指定。802.1Q (802.1Q タグ VLAN)、MULTIPLE (マルチプル VLAN) から選択する。デフォルトは 802.1Q

入力・出力・画面例

```
Manager > set vlan mode=multiple  
  
Operation successful.  
It will not be activated before saving the setting and rebooting the system.
```

例

VLAN モードをマルチプル VLAN に設定する

```
SET VLAN MODE=MULTIPLE
```

備考・注意事項

- ・VLAN モードの変更は、システムの再起動後に有効になるが、コマンド実行後は、メモリー上の設定内容は、変更後の VLAN モードで作成される。SHOW VLAN コマンドで表示される VLAN 情報も、変更後の VLAN モードで表示される。
- ・VLAN モードを変更すると、IP アドレスの設定が消去されるので、VLAN モードを変更した後に IP アドレスを再設定する必要がある。

関連コマンド

ADD VLAN PORT (12 ページ)

CREATE VLAN (14 ページ)

DELETE VLAN PORT (16 ページ)
DESTROY VLAN (18 ページ)
SET VLAN PORT (22 ページ)
SHOW VLAN (24 ページ)

SET VLAN PORT

カテゴリー：バーチャル LAN

802.1Q タグ VLAN モード

```
SET VLAN={vlan-name|1..4094} PORT={port-list|ALL} FRAME={TAGGED|
    UNTAGGED}
```

マルチプル VLAN モード

```
SET VLAN=vlan-name PORT={port-list|ALL} [vlan-name]
```

vlan-name: 802.1Q タグ VLAN モードの場合は、作成済みの VLAN 名。マルチプル VLAN モードの場合は、固定 VLAN 名（アップリンク VLAN:UV1~3、ノーマル VLAN:NV1~10、クライアント VLAN:CV1~V99）が利用可
port-list: スイッチポート番号（1~。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能）

解説

802.1Q VLAN モードの場合は、VLAN 所属ポートのタグ付き、タグなし設定を変更する。
 マルチプル VLAN モードの場合は、VLAN に所属するポートを変更する。

パラメーター

VLAN 802.1Q タグ VLAN モードの場合は、VLAN 名または VLAN ID で指定。マルチプル VLAN モードの場合は、VLAN 名を指定

PORT 対象となるスイッチポート番号または ALL。ALL を指定した場合はすべてのスイッチポートが対象となる

FRAME 該当 VLAN のタグ設定。TAGGED（タグ付き）、UNTAGGED（タグなし）から選択する。タグ付きポートをタグなしポートに変更すると自動的に受信可能なフレームタイプがすべてのフレームになる。タグなしポートをタグ付きポートに変更すると VLAN タグ付きフレームのみ自動的に受信可能となる。マルチプル VLAN モードの場合は、設定できないため、エラーメッセージが表示される

入力・出力・画面例

```
Manager > set vlan=test port=5 frame=tagged
Operation successful.
```

例

VLAN「test」のポート5をタグ付きポートとして設定する

```
SET VLAN=test PORT=5 FRAME=TAGGED
```

備考・注意事項

- ・マルチプル VLAN モードの場合 VLAN 名は大文字のみ使用可能。
- ・LDF 検出が有効なポートにタグ付きポートを指定することはできない。
- ・ポート認証で認証済みのポートの所属 VLAN も変更することができる。

関連コマンド

ADD VLAN PORT (12 ページ)

CREATE VLAN (14 ページ)

DELETE VLAN PORT (16 ページ)

DESTROY VLAN (18 ページ)

SET VLAN MODE (20 ページ)

SHOW VLAN (24 ページ)

SHOW VLAN

カテゴリー：バーチャル LAN

802.1Q タグ VLAN モード

SHOW VLAN [= {vlan-name|1..4094|ALL}]

マルチプル VLAN モード

SHOW VLAN

vlan-name: VLAN 名

解説

VLAN 情報を表示する

パラメーター

VLAN VLAN 名または VLAN ID を指定。省略時はすべての VLAN を表示

入力・出力・画面例

```

Manager > show vlan

VLAN Information (VLAN mode: 802.1Q)
-----
Name ..... default
Identifier ..... 1
Status ..... Static
Configured
  Untagged Ports .... 2-16
  Tagged Ports ..... None
Actual
  Untagged Ports .... 3-16
  Tagged Ports ..... None
Trunk Ports ..... None
Mirror Port ..... None
IP Interface ..... Yes
-----
Name ..... TEST
Identifier ..... 10
Status ..... Static
Configured
  Untagged Ports .... 1
  Tagged Ports ..... None
Actual

```

```

Untagged Ports .... 1-2
Tagged Ports ..... None
Trunk Ports ..... None
Mirror Port ..... None
IP Interface ..... Yes
-----

```

Manager > show vlan

VLAN Information

```

-----
Port   Vlan
-----
01 :  UV1
02 :  CV2
03 :  CV3
04 :  CV4
05 :  CV5
06 :  CV6
07 :  CV7
08 :  CV8
09 :  CV9
10 :  CV10
11 :  CV11
12 :  CV12
13 :  CV13
14 :  CV14
15 :  CV15
16 :  CV16
-----

```

Name	VLAN 名
Identifier	VLAN ID
Status	状態。常に Static
Configured	VLAN 関連コマンドで設定されたポート。
Actual	実際に VLAN に所属しているポート。Port Authentication 機能で RADIUS サーバーから所属 VLAN を指定された場合に本パラメーターにポートの所属が反映される。
Untagged Ports	タグなしポートのポート番号。
Tagged Ports	タグ付きポートのポート番号。
Trunk Ports	トランクポート番号
Mirror Port	ミラーポート番号
IP Interface	IP アドレス

表 3: 802.1Q タグ VLAN モードの場合

Port	ポート番号
Vlan	VLAN名

表 4: マルチプル VLAN モードの場合

例

VLAN 情報を表示する

```
SHOW VLAN
```

関連コマンド

ADD VLAN PORT (12 ページ)

CREATE VLAN (14 ページ)

DELETE VLAN PORT (16 ページ)

DESTROY VLAN (18 ページ)

SET VLAN MODE (20 ページ)

SET VLAN PORT (22 ページ)

SHOW VLAN MODE

カテゴリー：バーチャル LAN

SHOW VLAN MODE

解説

起動時と現在の VLAN のモードを表示する

入力・出力・画面例

```

Manager > show vlan mode

VLAN mode Configuration:
-----
Boot VLAN mode      : 802.1Q
Current VLAN mode   : Multiple
-----

Manager >

```

Boot VLAN mode	起動時の VLAN モード (802.1Q か、Multiple)
Current VLAN mode	現在の VLAN モード (802.1Q か、Multiple)

表 5:

例

VLAN モードを表示する

SHOW VLAN MODE

関連コマンド

SET VLAN MODE (20 ページ)